

## 総務部

第6回代議員総会決定の活動方針に基づいて、定款第4条に記載された諸事業の遂行のために、各部との企画・調整を行い、会務の円滑な執行に努めた。

### 1. 2019年3月末会員数

#### 医科

開業会員 1,169名

勤務会員 676名

休診会員 43名

#### 歯科

開業会員 1,115名

勤務会員 282名

休診会員 18名

合計 3,303名

### 2. 弔意・見舞い等は規定に則り行った。

### 3. 諸会議及び行事開催状況

① 代議員総会 1回

② 理事・支部長会 1回

③ 理事会 11回

④ 会計監査 4回

⑤ 公認会計士による外部監査 2回

⑥ 各部担当理事会

三役会 12回、総務部 12回、財政部 1回、組織・事業部 2回、政策部 12回、研究部 12回、広報部 22回、共済部 4回、歯科部 12回

⑦ 委員会

共済制度運営委員会 1回、休業保障保険給付審査委員会 12回、休業保障保険加入審査委員会 1回、女性部会 2回

⑧ 支部長会 1回

⑨ 研修会

支部研修会 6回、公開医政講演会 1回、保険診療セミナー1回、開業医のための実務セミナー1回、文化講演会 1回、接遇、電話対応マナー講座 1回、女性部会市民セミナー1回、ライフプラン講座 2回、女性部会よろずトーク 1回

【歯科部関連事業】

歯科市民集会 1 回、歯科スタッフセミナー1 回、歯科臨床講演会 1 回、歯科施設基準届出研修会 2 回、歯科医療安全管理研修会 1 回、歯科保険請求に関する講演会 1 回

⑩ 街頭宣伝行動 1 回

⑪ 親睦事業

日帰りバスツアー1 回、会員・家族親睦ボウリング大会 1 回、親子一泊キャンプ旅行 1 回、会員忘年会 1 回

⑫ その他の会議

北海道医師会との懇談会 1 回、札幌市医師会との懇談会 1 回、北海道歯科医師会との懇談会 1 回、札幌歯科医師会との懇談会 1 回、北海道歯科衛生士会・札幌歯科技工士会との合同懇談会 1 回、北海道新聞社生活部との懇談会 1 回

#### 4. 保団連諸会議への出席状況

①代議員会 2 回

②理事会 12 回

③その他

全国会長・理事長会議 1 回、厚生労働省交渉 1 回、歯科担当副会長会議 6 回、歯科理事会議 6 回、共済制度運営委員会 2 回、組織部会 5 回、女性部会 2 回、新聞部会 2 回、歯科社保・審査対策部会 3 回、休保審査委員会 11 回、休保加入審査委員会 1 回、予算編成検討委員会 2 回、審査対策担当者会議 1 回、事務局長会議 1 回、組織担当者交流会 1 回、女性部会学習交流会 1 回、医療研究フォーラム 1 回、共済担当事務局会議 2 回

#### 5. 職員人事

異動なし

## 財 政 部

4月に実施された診療報酬・介護報酬同時改定は微増の引き上げにとどまった。さらに、安倍首相はこれまで2度に渡って延期してきた消費税の引き上げを改めて表明し、医療機関にとって既に大きな負担となっている損税が一層重くのしかかることが懸念される。

このような状況下、本会財政の財政健全化に向けて経費削減を心掛け、昨年度に引き続き会員のメリットを損なうことなく、単年度のプラス収支を達成した。

本会の諸活動が円滑かつ順調に執行されるべく、以下の事項に努めた。

1. 第6回代議員総会決定の方針に基づき、収入・支出予算の正確な執行に努めた。
2. 毎理事会において、会計現況報告を行うことにより、各部の予算執行の均衡を図るとともに効率的な予算執行の助言を行った。
3. 組織拡大、共済活動に伴った財政運営を行い、財政基盤の強化と会務の円滑な執行に努めた。
4. 単年度における厳密な収支の均衡を助言し、単年度プラス収支に向けて、経費削減に努めた。
5. 会計ソフトを導入し、会計処理業務の更なる強化と効率化を図った。
6. 公印管理を厳密にし、財務管理の実務の強化に努めた。

## 事業部

2018年度代議員総会決定に基づき、下記の事業を行った。今年度は接遇・電話対応マナー講座を札幌で開催した。さらに、北海道日本ハムファイターズや劇団四季等、札幌文化芸術劇場で開催された新国立劇場バレエ団「白鳥の湖」や北海道二期会「椿姫」等のチケット割引販売を行い、多くの地方会員が利用するなど、大変好評を得た。そのほか、親子一泊キャンプ旅行、ボウリング大会、文化講演会、会員忘年会などを開催し、会員および家族、従業員の親睦と交流を深めた。また、昨年を引き続き、「3.11 こども支援基金」の募金活動を行い、東日本大震災で孤児となった子供たちの長期的な支援を行った。

### ・6月2日 接遇・電話対応マナー講座（札幌）

参加者：217名（92医療機関）

講師：矢川 美恵子氏（ANAビジネスソリューション(株)）

演題：「医療現場の接遇&マナーセミナー」

場所：プラニスホール

### ・8月4～5日 親子一泊キャンプ旅行

参加者：40名（13医療機関）

場所：道民の森 一番川地区 自然体験キャンプ場

### ・10月13日 第26回ボウリング大会

参加者：67名（17医療機関）

場所：ディノスノルベサ

懇親会：三川屋会館

### ・10月27日 文化講演会

参加者：77名

講師：西川右近氏（日本舞踊家 西川流総師）

演題：「楽しく踊って筋力運動」

場所：札幌 東急REIホテル

### ・12月1日 会員忘年会

参加者：56名（28医療機関）

場所：札幌パークホテル

### ・北海道日本ハムファイターズ観戦チケット販売

・6月2・3日 中日ドラゴンズ戦 20枚

- ・6月16・17日 ヤクルトスワローズ戦 20枚
- ・7月21・22日 ソフトバンク戦 20枚
- ・7月28・29日 オリックス戦 20枚
- ・8月25・26日 東北楽天戦 20枚

・劇団四季チケット販売

- ・8月18・19日 サウンド・オブ・ミュージック 20枚
- ・1月5・6日 リトルマーメイド 20枚

・札幌文化芸術劇場チケット販売

- ・11月23・24日 新国立劇場バレエ団「白鳥の湖」 20枚
- ・3月10日 北海道二期会オペラ「椿姫」 20枚

## 政 策 部

政府は、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を焦点に社会保障削減の施策を進めている。

診療報酬と介護報酬の同時改定、地域医療構想を含む医療計画と介護保険事業計画の同時スタート、国民健康保険の都道府県への財政運営の移管など、医療の大転換が始動した。

安倍政権は、経済財政諮問会議や未来投資会議を舞台に、雇用年齢や年金支給開始年齢の見直し、医療では高額療養費の負担限度額引き上げや、介護保険の現役並み所得者 3 割負担、生活保護基準引き下げなどの政策を打ち出した。また、6 月に閣議決定した「骨太の方針 2018」では、75 歳以上の窓口負担 2 割化や、受診時定額負担などの患者負担増が計画されている。

政策部は、政府の患者負担増の諸政策に対し「みんなでストップ！患者負担増」患者署名を実施し、3,748 筆の署名を集約し国会に提出した。さらに、医療への「ゼロ税率」適用と消費税 10%への引き上げ中止を求める会員署名を実施した。また「地域包括ケア時代—元気高齢者を育む医療・介護そして地域」をテーマに公開医政講演会を開催し、日本の医療・介護の今後向かうべき方向性について市民と意見交換を行った。

その他、国民皆保険制度を守り、医療をはじめとする社会保障の充実とさらなる発展に向け、全期を通して要請行動や他団体と懇談など、幅広い活動を行った。以下活動実績を列記する。

1. 「みんなでストップ！患者負担増」患者署名を実施し、3,748 筆の署名を集約し国会に提出した。また、患者の医療制度への関心を高める目的で署名と同時に実施した「クイズで考える私たちの医療—クイズハガキ」は、予想を超える 1,316 通を集約、多くの貴重な意見を得た。
2. 医療への「ゼロ税率」適用と消費税 10%への引き上げ中止を求める会員署名を実施し国会に提出した。
3. TPP11 協定を批准しないことを求める団体・個人署名を実施した。
4. 北海道難病連と連名で北海道内の市町村に対し「難病医療助成制度における診断書料の公費助成創設と国への意見書提出」を求める要請を行った。
5. 生活保護「指定医療機関における後発医薬品の給付の原則化」「明細書の発行の無償化」についてのパブリックコメントを提出した。
6. 札幌大通公園にて、政府が進める患者負担増計画の問題点等を啓発する街頭宣伝行動を

行った。

7. 四国医療産業研究所所長、日本医師会総合政策研究機構客員研究員の櫃本 真事氏を招き「地域包括ケア時代一元気高齢者を育む医療・介護そして地域」をテーマに公開医政講演会を開催した。
8. 北海道医師会との懇談会を開催し「都道府県別診療報酬」「医師の働き方改革の行方」をテーマに意見交換を行った。
9. 札幌市医師会政策部との懇談会を開催し「都道府県別診療報酬」「控除対象外消費税」等をテーマに意見交換を行った。
10. 北海道歯科医師会、札幌歯科医師会と懇談会を開催し、歯科界が抱える問題を中心に意見交換を行った。
11. 北海道新聞社生活部と「都道府県別診療報酬」等をテーマに懇談を行い、その概要と問題点等について意見交換を行った。
12. 政策部内で社会保障や医療、経済政策などをテーマに勉強会を開催した。
13. 医療・介護・税金について負担軽減制度や利用方法などを紹介したパンフレット「2019年版『知ってトクする！医療・介護・税金の負担軽減策』」を会員に配布した。

## 研 究 部

2018年4月の診療報酬・介護報酬の同時改定に対し、テキストや機関紙等を通じ情報をいち早く会員に提供した。6月には開業医のための実務セミナー、7月には保険診療セミナーを開催し、保険診療や請求事務等の留意点について会員および職員を対象に解説した。また2月には、講師を招き、施設基準対策セミナーを開催し、施設基準管理のポイントや適時調査への対策等を解説した。

日常的には会員からの保険請求や審査・監査に対する質問や相談に応じ、その一部を本会新聞のQ&A欄に掲載した。また、支部研修会に講師を派遣し、医療、介護を巡る情勢等について情報提供を行った。

主な具体的活動は次の通りである。

### 1. 支部研修会（講師派遣）

4月23日	小樽・後志支部研修会
6月9日	函館地区支部研修会
6月16日	帯広・十勝支部研修会
10月4日	岩見沢支部研修会
10月25日	三笠支部研修会
2月19日	苫小牧支部研修会

### 2. 検討会・セミナー

6月17日	開業医のための実務セミナー（組織部と共催）
7月12日	保険診療セミナー
2月14日	施設基準対策セミナー

### 3. 保険診療テキストの配布・販売

5月	「新点数運用 Q&A-レセプトの記載-」、「保険診療便覧」配布
7月	「保険診療の手引」販売
8月	「届出医療の活用と留意点」販売
9月	北海道胆振東部地震の影響を受け、「保険医のための災害対策必携」配布
10月	「在宅医療点数の手引」販売
12月	「保険医のための審査、指導、監査対策」販売

### 4. 診療報酬改定への対応

4月14日	保団連「新点数運用 Q&A-レセプトの記載-」編集会議
4月21日	保団連 第二次新点数検討会

### 5. 担当理事会 12回

# 広 報 部

広報部は、担当理事会を全 22 回開催し、北海道保険医新聞の発行、ニュースレターの配信、ホームページの内容充実に日々努め、その他の各種事業について活動を行った。

## 1. 北海道保険医新聞

- ・医療情勢に関するニュース、医療政策に対する本会の主張や解説記事、講演要旨、各種事業報告を迅速に伝えた。支部報告、読者のひろばでは会員の身近な話題が反映される紙面作りを心掛けた。支部日よりでは各地域での活動状況や特色等を掲載した。「会員訪問」では札幌支部、旭川支部、帯広・十勝支部の会員に対して取材を行い、会員の生の声を掲載した。保険診療研究を掲載し、日常診療の一助とした。
- ・通巻 900 号を迎え、2019 年 3 月 20 号を 900 号記念号として発行した。
- ・読者モニター（18 支部、28 人）を実施し、企画・紙面構成など北海道保険医新聞に対する率直な意見を集め、機関紙として果たすべき役割・目的の再検討を行った。
- ・組織・事業部と協力して組織拡大号を企画・発行し、新規会員獲得に努めた。  
(定期発行数 22 回、各 4000 部)

## 2. ニュースレター

- ・希望する会員に最新医療情報、お知らせ、ホームページ更新案内、保険医会の動きなどを週 2 回 E メールで配信し、迅速な情報提供を行った。  
(配信回数 102 回、利用者 929 人)。

## 3. ホームページ

- ・本会の主張や活動内容、医療情勢、診療報酬改定等の情報の迅速な発信を行った。
- ・リニューアルを行い、デザインやメニュー構成を見直したほか、パソコン、タブレット、スマートフォンの各デバイスからアクセスしても最適な画面表示で閲覧可能にした。

## 4. 北海道新聞社との懇談会

- ・北海道新聞社との懇談会を 11 月 1 日、政策部と合同で行い、都道府県別診療報酬について、今後記事として取り上げるべき事項を要望した。

## 5. 保団連との連携

- ・保団連新聞部会に 2 回出席し、編集に協力した。また、全国保険医新聞「羅針盤」を担当理事が 3 回執筆した。

## 共 済 部

2018 年度活動方針に基づいて、保険医年金、団体定期保険、保険医休業保障共済保険、銀行提携融資制度の有利性を広く宣伝し、制度の普及・拡大に努めた。

金融庁の加入基準規則を乗り越えて共済部、理事が一丸となり、団体定期保険、保険医年金、保険医休業保障共済保険の加入者拡大に努めた。保団連との密接な連携により、会員により有利な制度になるよう制度の改善・保全対策に努めた。組織部と協力して会員拡大に努めた。

### 1. 共済部担当理事会並びに各種委員会の開催

共済部担当理事会（4回）、休業保障共済保険給付審査委員会（12回）、休業保障共済保険加入審査委員会（2回）、北海道保険医会共済制度運営委員会（1回）を開催し、制度の健全な運営と普及・拡大に努めた。

### 2. 会員への情報提供

機関紙の「組織拡大号」、ホームページ等を通して、生保業界を取り巻く経済状況や共済制度に関する情報提供に努めた。

### 3. 「ライフプラン講座」の開催

今年度は例年開催しているライフステージに関する有用な講座に加え、新たな試みとして会員家族に共済への理解を深めてもらえるよう「ライフプラン講座“特別編”」と題し、食事会と共済説明会を合わせて行った。

<講座> 日 時 5月19日（土）

講 師 プラン DO ファイナンシャルプランナー 須藤 臣 氏

演 題 若いうちから備えよう 老後も家族も安心のマネープラン  
～資産運用、年金、保険、相続～

参加者 28名

<特別編> 日 時 3月16日（土）

参加者 24名

場所 ホテルオークラ札幌

### 4. 組織部との連携

組織部と協力して宣伝、募集活動を行い、会員拡大および団体定期保険・保険医年金・休業保障共済保険の加入者拡大に努めた。

### 5. 保団連との連携

休業保障共済保険給付審査委員会（12回）、休業保障共済保険加入審査委員会（3回）、保団連共済制度運営委員会（2回）に積極的に参加し、制度の健全な運営と普及・拡大に努めた。

## 6. 2018年度の普及実績

### イ、保険医年金

#### [新規・増口申込]

月払	101名	549口
一時払	81名	963口

#### [加入総数]（2018年9月30日現在）

月払	1,072名	8,968口
一時払	424名	4,510.0口

（※加入総数の一時払の加入口数については掛金100万円を1口、50万円を0.5口として集計）

### ロ、団体定期保険

#### [新規加入]（2018年4月1日～2019年3月1日加入）

会員 34名、配偶者 14名、子供 11名 合計 59名

#### [加入総数]（2018年10月1日現在、2017年度決算状況）

会員 858名、配偶者 339名、子供 87名 合計 1,284名

総保険金額 27,621,000,000円

年間払込保険料合計 210,642,285円

2017年度の保険金支払状況 145,000,000円（7件）

配当還元金 39,676,136円（年間払込保険料の18.42%を還元）

加入率 34.62%

### ハ、保険医休業保障共済保険

#### [新規・増口加入]（2018年8月1日～2019年4月1日加入）

12名 55口

#### [加入総数]

498名 2,135口（2019年3月31日現在）

#### [給付状況]

傷病 32名 29,784,000円

長期 16名 10,158,000円

弔慰 5名 11,500,000円

### ニ、銀行提携融資制度

北洋銀行 0名、北海道銀行 0名、みずほ銀行 0名、三井住友銀行提携住宅ローン 0名、三井住友銀行提携フリーローン 0名、ソニー銀行提携住宅ローン 0名

## 組 織 部

組織部は、今年度3回の担当理事会を開催し、各事業計画の具体化、新研修医制度や未組織地区に対する組織的対応についての検討を進めた。

今年度の主な事業では、「開業医のための実務セミナー」を1回開催し（6月に札幌市）23医療機関31人の参加者と内医科1名の新規入会者を得ることができ。また、2年振りに「入会パンフレット」を作成して未入会員に送付した。新規開業医及び勧誘対象者（北海道医療年鑑病院編、診療所編を活用）への積極的な勧誘、役員や支部からの紹介なども合わせて行い組織拡大に努めた。

5月、医科歯科の研修医を対象に保険診療に関する講習会を実施し、本会の存在をアピールした。更に各支部においても研修会や講演会、文化、スポーツ活動等の独自の活動が活発に行われ、会員相互の学習及び親睦を深めた。

女性部会では、10月に日本笑い学会北海道支部 笑司長 伊藤一輔 医師を招き、「笑と健康のステキな関係～笑ってのぼそう健康寿命～」のタイトルで市民公開セミナーを開催し、医療・教育関係者、医師・歯科医師など56名が参加した。1月には女性向けの「防犯セミナー」を開催し、女性の会員・職員・家族16名が参加した。また、2月には今回で11回目となる女性医師・歯科医師懇談会「よろずトーク」を開催した。医療法人礼風会山岡医院 院長 丸山淳士 先生を招き「人も病気も見かけ通り」をテーマに学習会を開催し、女性医師・歯科医師相互の交流・意見交換を図った。

本年度、医科では入会者目標60名に対し入会74名、退会78名となり、実質4名の会員減となった。3月に開催した新点数検討会参加に伴う入会や、積極的な未入会員への勧誘により、入会者は昨年度の倍近く増えたものの、会員の高齢化（死亡、廃業、閉院）に伴う退会により、医科の会員減に歯止めをかけることができなかった。

歯科では、入会者目標60名に対し入会128名、退会33名、実質95名の会員増となり、ここ数年で最多の入会者数となった。特に3月に開催した新点数検討会参加に伴う入会者や、歯科医療安全研修会、歯科保険診療講習会、歯科施設基準届出研修会への参加に伴う入会者が目立った。

全体としては91名の会員増で、医科歯科合わせての会員総数は3,303名。2007年度以来、11年振りの会員全体の増加となった。また、これまで未組織地区に含まれていた江別市と当別町を札幌支部へ編入することが決定した。

本年度、下記の先生がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。  
(敬称略)

田村 升 (札 豊)	吉田 憲基 (苫小牧)	都香 隆 (札 南)
小玉 庸郎 (富良野)	西森 道男 (岩見沢)	笹川 勝次 (札 中)
伊藤 裕 (十 勝)	小川 哲夫 (札 白)	中野 昇 (札 中)

中畑 潜 (胆 振)	鈴木 勝美 (北広島)	森谷 尚行 (札 白)
土本 啓幾 (札 南)	橋本 史生 (札 厚)	鈴木 保昌 (釧 路)
高橋 尚志 (富良野)	花田 一誠 (札 西)	柏葉 武 (札 豊)
東郷 正晴 (旭 川)	葛西 公平 (函 館)	
松本 明彦 (釧 路)	林 敏 (旭 川)	

区 分	医 科	歯 科	合 計
開業医会員	1,169 名	1,115 名	2,284 名
勤務医会員	676 名	282 名	958 名
休診会員	43 名	18 名	61 名
合 計	1,888 名	1,415 名	3,303 名
前年度差	-4 名	95 名	91 名

## 歯 科 部

歯科部は、毎月、担当理事会を開催し、歯科医療政策・各種事業活動の協議、会員の現況把握等の協議を行った。特に、歯科診療報酬の問題点や次期診療報酬改定について活発に検討を行い、保団連等に対し具体的な提起を行うと共に、会員の日常診療に役立つ情報を北海道保険医新聞、ホームページ等に掲載し、正しい情報の迅速な伝達に努めた。

この間、北海道歯科医師会、札幌歯科医師会、北海道歯科衛生士会、札幌歯科技工士会等の歯科医療関係団体と懇談を積極的に行い、医療情勢の把握や歯科関連の諸問題の改善について意見交換を行った。また、「保険で良い歯科医療を」の実現に向けて患者署名を行うと共に、一般市民を対象に「歯科市民集会」を開催し、歯と口の健康が体の健康を保つ上でいかに大切であるかをアピールする啓発活動を行った。

さらに、会員に保険診療に関するアンケートや各種事業の開催時に個別にアンケートを実施し、厳しい医院経営の現状比較や歯科医療政策の認知度の把握、事業や活動に関する意見・要望の集約などに努めた。

また、昨年度末に開催された診療報酬改定時の「歯科新点数検討会」により 25 名、7・8 月に開催の「施設基準届出に係る研修会」により 45 名の新規入会者を獲得した。

以下に、歯科部関連の活動を項目毎に具体的に列記する。

### 医療制度・歯科診療報酬の改善運動

- (1) 歯科部担当理事会を毎月開催し、会員の現況の把握、歯科医療政策・各種事業活動の協議などを行った。さらに歯科医療問題学習会を開催して、医療改革、歯科医療政策等に関する共通の理解を深めた。
- (2) 全国保険医団体連合会の 18-19 年第 1 回・第 2 回代議員会に於いて、歯科医療の危機的状況の打開と次期診療報酬改定を見据え、保団連としての具体的な活動の方向性について発言を行った。また、次回改定をはじめ、今後の歯科医療改善の大きな運動をつくるための課題・対策等明確にし推進すべく開催された保団連第 15 回歯科全国交流集会にも役員を派遣した。
- (3) 会員に対し、『みんなでストップ!患者負担増』活動への協力を求め、さらに医療フォーラム、街頭宣伝行動等を通し本会の活動、署名活動への理解と協力を求めた。
- (4) 「口から幸せになろう」をテーマに保険で良い歯科医療の充実に向けて、一般市民・医療関係者を対象に「第 8 回歯科市民集会」を北海道歯科衛生士会、札幌歯科技工士会の協力のもと開催。北海道、札幌市、北海道新聞社、HTB 北海道テレビ、北海道後期高齢者医療広域連合の後援を得て、歯科医療・口腔機能管理の重要性の啓発活動を行った。
- (5) 他団体との懇談として北海道歯科医師会、札幌歯科医師会、北海道歯科衛生士会、札幌歯科技工士会と懇談会を開催し、歯科医療の危機的状況 打開に向け医療情勢および諸問題に関して意見交換を行った。

- (6) 「歯科保険診療に関するアンケート」を実施し、会員の現状把握と医療保険制度、診療報酬、本会の活動に対する意見や要望を収集した。

### 歯科医療を充実、向上させる学術・研究活動

- (1) 「歯科保険診療・審査等に関する講習会」を『「今次改定の整理と再検討」～算定方法を整理して、増点につなげよう～』と銘打ち開催。2018年改定後、厚労省から出された疑義解釈を含め請求での留意点等を説明し、増点に向けて検討を行った。
- (2) 「新病名『口腔機能低下症』の診断と管理」をテーマに北海道大学大学院歯学研究院 口腔健康科学分野 高齢者歯科学教室 教授の山崎 裕 氏を講師として歯科臨床講演会を開催。歯科医師・スタッフを対象に平成30年度診療報酬改定で新設された「口腔機能低下症」とオーラルフレイルの関係、検査方法や適切な管理法等について学んだ。
- (3) 「歯科医療安全管理研修会」を南札幌脳神経外科院長の小笠原俊一先生を講師として開催。医療機関の体制確保を支援した。
- (4) 「歯科外来診療環境体制に係る研修会」「院内感染防止対策に係る研修会」「在宅療養支援歯科診療所に係る研修会」「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所に係る研修」を北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系高度先進保存学分野教授の川上智史先生を講師として開催。施設基準への各医療機関での対応を支援した。
- (5) 北海道保険医新聞5月号「歯科保険診療研究」において、日常臨床での具体的な症例検討を行い、算定要件、Q&A等正しい情報の伝達に努めた。さらに、2018年診療報酬改定後に発出された厚労省の疑義解釈を会員に送付した。
- (6) 歯科部主催の各種事業の開催案内や内容記事を北海道保険医新聞、本会ホームページ、ニュースレターに掲載。事業開催時に適宜アンケートを実施して会員の意見、要望等を反映した事業の企画・開催に努めた。

### 会員の権利と経営を守る諸活動

- (1) 会員からの保険診療に関する質問に迅速に回答すると共に、指導等に関する個別相談への対応を行った。
- (2) 歯科スタッフセミナーを開催し「窓口業務の基礎知識(本会歯科部発行)」を中心に医療保険制度の基本的な知識を深め窓口業務での具体的な対応に関して解説を行った。
- (3) 「開業医のための実務セミナー」(札幌市開催)を組織部・研究部と共に開催し、雇用管理、歯科保険診療、保険請求等の解説を行い、会員の医院経営を様々な角度から支援した。

### 組織拡大と地域活動

- (1) 北海道保険医会の組織体制の強化と活動活性化のため、歯科部担当理事会において組織現況を把握すると共に歯科会員拡大に向けた具体策を協議。未入会員への理事による個別勧誘や歯科新規開業医に入会案内・申込書を送付して会員拡大に努めた。

- (2) 支部研修会、歯科保険講習会（帯広・十勝支部、函館地区支部、小樽・後志支部）等に講師を派遣し、支部歯科会員に対し医療情勢や会の活動を紹介し、保険診療や審査等に関する解説を行い、懇親を深めた。
- (3) 「開業医のための実務セミナー」を未入会員にも案内し、組織拡大を図った。
- (4) 未組織地区（胆振地区）で地域懇談会を開催し、地域の歯科会員・未入会員に最新の歯科医療情報や保険診療情報を提供するとともに、会員の意見・要望を会の活動に反映させるよう努めた。
- (5) 北海道大学・北海道医療大学の歯学部で出張保険講習会を開催し、学生・職員等に本会の活動内容や最新の保険請求情報について説明し、会員拡大に努めた。

## その他

- (1) 将来の組織運営を担う人材を育成し、全国的な保険医活動に寄与するため、保団連主催の「夏季セミナー」「歯科全国交流集会」等に参加し、積極的な意見交換を行った。
- (2) 本会事業部が行う各種事業を通じて、会員およびコ・デンタルスタッフとの親睦を深めた。
- (3) 各種開催事業を撮影・録画し会員への情報伝達に役立てると共に、デジタル媒体のさらなる活用・利用法等について検討を行った。

# 【 貸借対照表 】

2019年3月31日

単位：円

科 目	金額欄	科 目	金額欄
資産の部		負債の部	
I 流動資産	(50,393,715)	I 流動負債	(10,121,981)
現金	0	未払金	5,560,100
当座預金	8,548	預り金	291,881
普通預金	48,063,459	未払法人税等	70,000
郵便貯金	379,202	退職金準備引当金	4,200,000
立替金	1,942,506	負債合計	10,121,981
II 固定資産	(788,703,799)	正味財産の部	
特別預金	785,652,896	正味財産	(828,975,533)
什器備品	2	(うち当期正味財産増減額)	(6,229,684)
敷金	3,050,901	正味財産合計	828,975,533
資産合計	839,097,514	負債資本合計	839,097,514